

生活行為とライフスタイル (Ⅱ)

○甲子園短大 永藤清子 神戸松陰女子短大 水島かな江 北海道教育大 田中陽子

【目的】「生活行為とライフスタイル (Ⅰ)」で、生活行為の頻度についての意識は、様々な属性等に拘らず、全体としては似ていることがわかった。しかし、その中でも、属性や価値観などによって微妙に異なるものも見られている。研究 (Ⅱ) では、微妙に意識の違いが見られる家事的な生活行為を抽出し、さらに細かくライフスタイルとの関連を検討し、指標としての有効性を探ることを目的とする。

【方法】調査方法、対象、時期等は研究 (Ⅰ) に準ずる。研究 (Ⅰ) でライフスタイルの多様化に関連すると考えられた、Ⅲ型 (意識されている頻度が3つあるもの)、Ⅳ型 (意識されている頻度が4つあるもの) に含まれる家事的な生活行為を中心に分析した。

【結果】(1)家事的な生活行為、Ⅲ型、Ⅳ型のうち、「布団干し」、「家族への連絡」、「アイロンをかける」行為、及び、トイレ、流し台等の掃除に関する行為は、住居の形態、母親の職業との関連が見られることがわかった。

(2)「雑巾掛け」、「外回りの掃除」は、母親の職業が自営業の場合において、頻度を高く考えている傾向が見られた。

(3)洗濯に関わる行為は、Ⅱ型に含まれ、頻度についてかなり共通した考えの見られる行為であるが、行動に対する価値観 (特に地位や名誉) によって微妙な違いが見られた。

(4)Ⅰ型に含まれ、共通した考え方の強い「家計簿をつける」行為であるが、頻度についての意識は、住居の形態、行動に対する価値観、ライフコースについての考え方によって違いが見られることがわかった。